

市長	助役	危機管理監	課長	室長	係長	係員

会議等報告書

会議等の名称	気仙沼市地震・津波防災検討会議「第2回 防災教育検討部会」
日時	平成18年2月16日（木） 14:00～15:40
場所	気仙沼市地域交流センター 交流室A
出席者	気仙沼市教育委員会 阿部教育長、梅津教育次長、菅原学校教育課長 気仙沼高校 白幡校長、気仙沼土木事務所用地班 山田主事 気仙沼市小中学校長会 横山会長、同 教頭会 村上会長 月立小学校 伊藤教頭、階上中学校 照井教諭 総務課危機管理室 佐藤室長、金野係長、鈴木主任主事、佐々木主事
報告者	総務課 危機管理室 主任主事

1. 開 会 2. あいさつ：阿部教育長

3. 議 事

1. 経緯説明 ：「宮城県沖地震・津波への備え」「住民の防災意識高揚」
「防災マップワークショップ」「広い世代への啓発」「学校を核とした取組」
2. 課題について：「教材・情報・人材の不足」：2006 県土木事務所アンケート
「映像等の資料が有効」：2005 東北大学アンケート
3. 防災教育の紹介：気仙沼小学校「防災探検隊」：防災マップ作成
浦島小学校「人形劇使用 防災講座」：仙台市消防局 京氏
気仙沼高校「首藤教授を招いての防災講座」：地域に開放
月立小学校「防災キャンプ」：ひなん、炊き出し、講座、マップ
階上中学校「通年型総合学習」：被災体験講話、住民アンケート、発表会
4. 今後の取り組みについて （事務局提案）
 - ・市 所有資料の紹介（映像、写真、DVD等）
 - ・出前防災講座（マナビィ）のお知らせ ・他校の取り組み事例の紹介

4. その他

- ・2月22日：生徒会での集まり→ 防災講座、防災教育紹介、アルファ米体験
- ・2月24日：浦島小学校での「県 主体 出前講座」（市も10分間）

◎ 部会長（教育長）から事務局への指示事項

「現場の先生方と、行政側との話し合いの場を設けて意見交換すること」



アンケート結果（課題）を聞いての感想・意見

月立：伊藤	・ 津波危険区域が学区内には無いが、気仙沼市の子供として、津波に関する防災教育も必要と考える。
鹿小：横山	・ チリ津波時に中2だった。石碑や言い伝えなど昔から言われていた。視覚に訴えていく必要がある。
条南：村上	・ 学校での訓練時にも津波については必ず話している。いかに子供の心に伝えるか。
階上：照井	・ 教える立場の教職員が災害の経験が無いのが実情。専門家の援助、ソフト面の支援、関係機関との連携が必要である。
気高：白幡	・ 1～2年に一度講演会を実施。卒業までに1度は聞くように。聞く聞かないで、明らかな差が生じる。高校生はデータ映像でも感じる。高校生はボランティアなど助ける側である。地域との連携が必要と考える。
阿部教育長	・ 色々な段階で対応できるよう、学校側が取り組んでいく必要がある。過去の情報を紹介し、「どう対応する」という知恵を、伝えていかなければならない。発達段階に応じた防災教育が必要。
菅原課長	・ 2月24日(金)浦島小学校で県が出前講座を実施。小中学校に周知済
東北大後田	・ 一昨年、鼎ヶ浦高校での防災講座時のアンケート調査。今後の課題、よそから気仙沼に来た人は伝承がない。言い伝え大事。
梅津次長	・ 昨年、早朝の地震・津波注意報 登下校時の体制が未整備 地域のシェルター的な場所も考えられる。

H17年度の取り組み例を見ての感想・意見

月小：伊藤	・ 学校を「核」として地域，PTA，消防などの関係機関と連携ができた。 学校が接着剤となれることがわかった。 場所・スペースの提供もできる。 子供達だけではなく，親御さんの防災意識も高まった。
階上：照井	・ 地区毎に学年縦割りで「班編制」につき，3年生がリーダーシップ 担任，学校，皆で取り組んだことで，各先生が危険箇所の共有ができた。 情報の入手を含め，専門家の協力が必要。 先進校の取り組みでは10年以上。 継続が財産。 続けないと忘れる。 やがて，地域全体の防災意識の向上につながる。
鹿小：横山	・ 「防災の日」とは言っても，幅が広い。 チリ津波の日を「津波の日」にして，一斉的な取り組みなどどうか。
条南：村上	・ 参観日などに何かやると，家庭・地域への効果が上がる。
気高：白幡	・ 過去の被災を小中学生と一緒に調査など，高校生にできることがある。
東北大後田	・ 災害制御研究センターの学生を派遣・協力ができるかも。 沿岸小中へのアンケート 何かに合わせて開催しないと親は分からない。
梅津次長	・ 学校が避難所となっている。 学校側の対応についての説明が不十分 夜間の開錠，点灯などマニュアルの整備が不可欠。（教委＋防災で）

今後の取り組みについての感想・意見

佐藤室長	・ 先生方とどのようなものがよいか話していけないかと思う。
阿部教育長	・ 現場の先生方と行政との「情報交換の場」を設けて話し合ってほしい。